

# 第8回平和市長会議総会 閉会式

2013年8月5日(月) 15:30~16:00

広島国際会議場フェニックスホール

日本政府関係者挨拶	岸田文雄(外務大臣) 代読 北野 充(外務省軍縮・不拡散科学部長)
参加者代表挨拶	ドナルド・プラスケリック (平和市長会議副会長、アクロン市長・アメリカ)
閉会挨拶	田上富久(平和市長会議副会長、長崎市長) 松井一實(平和市長会議会長、広島市長)

**司会：**

ただ今から、第8回平和市長会議総会の閉会式を始めさせていただきます。はじめに、外務大臣の岸田文雄様から、ご挨拶を頂戴したいと存じます。

よろしく申し上げます。

**日本政府関係者挨拶**

**北野 充（外務省 軍縮不拡散・科学部長）：**

私、外務省の軍縮不拡散・科学部長の北野でございます。これより岸田外務大臣の挨拶を代読させていただきます。

松井平和市長会議会長、平和市長会議総会にご列席の皆様、この総会の重要性に鑑み、本来であれば私が出席させていただくつもりでございましたが、諸事情によりそれがかなわず、北野軍縮不拡散・科学部長に私の挨拶を託すことにいたしました。ご理解を願いたいと存じます。

日本のみならず、世界各地から、私の出身地でもあり、また核兵器の犠牲となったここ広島にお越しいただき、4年に1度開催される平和市長会議総会に参加された皆様に対し、核廃絶、そして世界恒久平和の実現のために様々な活動にご尽力いただいていることに心から感謝申し上げます。

我が国は唯一の戦争被爆国として、核兵器使用の影響の実態をどの国よりもよく知る国であります。

広島・長崎の惨禍を世代と国境を越えて継承することは我が国の使命であり、核兵器使用の人的影響についての正確な認識を、国際社会の更なる核軍縮の取組における出発点として確立することを目指していきたいと考えております。

2014年4月には、核軍縮・不拡散イニシアティブ（NPTI）の外相会合をここ広島で開催します。この外相会合の機会に、核兵器の非人道性についての認識がより多くの国に受け入れられるようなメッセージを被爆地広島から発信したいと考えております。

また、軍縮不拡散教育の観点から、核兵器使用の非人的影響を世代と国境を越えて継承していくため、先日広島にてユース非核特使第一号を委嘱しました。若い世代が核兵器のない世界に向けて何ができるかを自ら学び、考えたことを世界に伝えていくことを期待しております。

核兵器のない世界を実現するためには、政府のみならず、市民一人一人が、そのために進むべき道についてあらゆる側面から考えることが重要であり、この平和市長会議の活動

はまさにそのための取組です。

今年で8回目を数えるこの総会に、日本及び世界各地から集まられた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、核兵器のない世界の実現のために皆様とともに着実に歩んで行くという私の覚悟を申し上げて、私からの挨拶とさせていただきます。

以上です。

**司会：**

どうも、ありがとうございました。続きまして、参加者を代表して、平和市長会議副会長のプラスケリック アクロン市長からご挨拶をいただきたいと思います。お願いします。

### **参加者代表挨拶**

**平和市長会議副会長 ドナルド・プラスケリック（アクロン市長・アメリカ）：**

松井市長、市長の皆さん、ご来賓の皆さん、ご参加の皆さん、広島に今回2回目となります。私の市を代表し、そして全米市長会議を代表して参加できることを光栄に思っています。

オリバー・ストーン氏ほど有名な人間ではありませんが、ここで彼でしたら映画のことやメッセージを上手く伝えられると思います。しかし、私は皆さんと一緒にこの場において、市民の一人として世界のことを考える、この場にいることを非常にうれしく思っています。

世界は一つのコミュニティだと思っています。私たちは皆、一つの地球に住んでいます。たまたまいろいろな都市に住んでいますが、皆、この同じ世界に住んでいる家族なのです。かつてないほど市民は、どの町に住んでいてもあちこちを旅行するチャンスに恵まれています。情報も手に入ります。そして国際的なニュースもすぐに手に入れることができます。インターネットを使えば情報はどんどん手に入ります。そして、今日の世界、そして歴史についてどのようにして私たちが2013年に達したのかということを知ることはできます。

しかし、残念なことなのですが、多くの方々、特に私の国において、人々は歴史のことをよく知ろうとしません。時間とエネルギーをかけて学ぶべきです。自分の小さな住んでいる世界にとって重要なことだけではなく、もっともっと、どのように私たちがともに生きていったらいいのかということ学ぶべきだと思います。私たちは、ぜひとも人々に学んでほしいと訴えていくべきだと思います。楽しいことだけではなく、絶対必要なことにコミットしていくということ。そして、過去において犯してしまった過ちを2度と繰り返さないように、ということです。広島、長崎を初めて訪問した際にもそのように申しあげました。

60年ほど前です。世界の歴史において、今、振り返れば皆が非難するような出来事が起きました。しかし悲劇が起きた時にそれから学ぶことが1番重要だと思います。2度と同じ過ちを繰り返さないということです。だからこそ皆さんがこの場において、平和市長会議、そしてお二人の素晴らしい市長の指導力の下に活動しておられるのだと思います。

取るべき正しい態度を政府のリーダーに対し示していき、そして政府のリーダーたちが私たちの声に耳を傾ける。そして市民の皆さんも過去の教訓を学ぶようになってほしいと思います。

私は政府を代表してここにいるわけではありません。米国における市長たちは、非常に大きなフラストレーションを感じています。アメリカの連邦政府がなかなか理解してくれないのです。もっと都市に対してお金を配分して橋を良くする、下水道を整備するということは重要なのに、そういったことになかなか資金を配分しません。ワシントンDCに行っても、なかなかそういったことは実現しません。残念なことです。

しかし、市長が協力することにより議論を進めることはできると思います。190以上の市長が米国で平和市長会議に加盟しています。そして間違いなく米国の大統領は、賢明な考え方を持っていると思います。そのことに関しては、希望はあると思います。もちろん、大統領がどう考えているということは私にははっきり言えませんが。

さて、地球レベルの軍縮は、今後とも私たちの指導者に求めていかなければいけません。選択肢として「できたらやってほしいということ」ではなくて、私たちが生きている間に「絶対やらなければいけないものだ」として訴えるべきだと思います。

若い、12歳の女性のことを思い出しながら話しています。12歳、私の孫の年齢です。市長になっていろいろな仕事で大変なこともあります。常に孫の写真を持っています。孫のために、絶対良い社会にしていきたいと強く思うからです。

従って政府に「できたらこういった選択肢をとって欲しい」ということではなく、「絶対これではダメなのだ。私たちの子供、子供たちの子供、将来の世代のために絶対こういった選択肢でなければならないのだ」ということを示すべきだと思います。

そういった意味で、平和市長会議の役割は非常に重要です。将来のために欠かせないものです。世界中のために、そういった意味から今回皆さんとともに努力できることを、そして皆さんが発揮しておられる各国でのリーダーシップに改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

**司会：**

どうも、ありがとうございました。続きまして、平和市長会議副会長の田上長崎市長から閉会のご挨拶をいただきます。

## 閉会挨拶

### 平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

第8回平和市長会議の閉会にあたりまして、副会長の一人としてご挨拶を申し上げたいと思います。3日間様々な議論が行われました。この会議に関わったすべての皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

平和市長会議のメンバー都市は、5,712都市になります。5,000都市を越えた時点で「この組織の体制を如何にこれからも強固なものにしていくか」、そして、「如何に一つ一つの都市が主体的に参加できるようにしていくか」というテーマについて、この2年間議論を重ねてきました。そして、今回の総会で新しいこれからの平和市長会議の方針が認められ、全員で共有をすることができました。その意味で、平和市長会議が次のステップに進む大変重要な総会であったと思っています。

この総会は3日間、開かれました。その間、私の中では2つのキーワードがずっと心の中で動いていました。一つは「No more Hiroshima」という言葉です。長崎の被爆者の方で山口仙二さんという方がおられます。彼は若い時から核兵器廃絶のリーダーとして活躍してきました。1982年には被爆者として初めて国連で演説をしました。自らの顔と身体のケロイドの写真を示しながら、彼は「No more Hiroshima, No more Nagasaki, No more war, No more Hibakusha」そう訴えました。

その彼は先月6日、この世を去りました。彼が叫んだその言葉は、今、私たちも同じ思いを共有していると思います。それは、私たちの共有の目的でもあります。核兵器のない世界を目指してこれだけ多くの皆さんが集まり、そして力を合わせてそのゴールに到達する時まで進もう、そういう思いを共有できた3日間であったと思います。「No more Hiroshima」という言葉を忘れないようにしたい。「No more Nagasaki, No more war, No more Hibakusha」という言葉を忘れないようにしたいと思います。

もう一つの言葉は「Peace from Nagasaki」という言葉です。これは平和について発信するというだけではなく、「まず、自分たちの町で平和な世界を構築していこう」「自分たちの町から平和な社会を構築していこう」という意味の言葉だと思っています。Peace from Granollers, Peace from Frogn, Peace from Halabja, Peace from Kodaira. どの町の言葉を入れてもこれは成立する言葉だと思っています。私たちは市長として、自分たちの町が信頼関係に基づく社会となっていくように努力しなければならないと思います。

と同時に、この平和市長会議という場も、多くの国々の環境も違う、それぞれ抱えている課題も違う首長が集まって、ともに議論をする。信頼関係を作っていく。そういう場だと思っています。この会議自体が信頼関係を作る、とても大事な役目を担っていると思います。その意味では、「Peace from Mayors for peace」ということもできるのであろうと思いま

す。

皆さんとともに過ごしたこの3日間。「No more Hiroshima」という言葉、そして「Peace from Nagasaki」という言葉を皆さんとともに、この第8回総会のキーワードとして共有できれば非常にうれしく思います。

そして最後に、今回の総会を準備し、そして3日間私たちのお世話をしてくださった松井市長、小溝事務総長、そして湯浅事務次長をはじめ、広島市のスタッフの皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

平和市長会議の総会は、次回は長崎市で4年後に開かれます。4年後にまた、皆さんとこうしてお会いできることを楽しみにしています。そしてその4年間の間にも、あちこちで皆さん同士がお会いして、そして信頼関係を育てることができればと思います。改めてすべての皆さんに感謝して、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**司会：**

どうも、ありがとうございます。最後に、主催者を代表し、平和市長会議会長である広島市長 松井一實よりご挨拶申し上げます。

**平和市長会議会長 松井一實（広島市長）：**

皆さん、本当にありがとうございました。本当に最後の閉めの挨拶をさせていただきます。

私の気持ちとしては、ようやくこの会議を無事終えることができました。本当にホッとしています。それもひとえに加盟都市の皆さんを初め、各国政府・NGOの関係者の皆さん、そして会議を支えてくださいましたボランティア関係スタッフの皆さんのお蔭です。心からお礼申し上げます。

この度の総会、先ほど田上市長からもありました。今後の新たな取組の方向がようやく姿を見せました。これから本当にしっかりとした取組をやっていかなければなりません。私自身はこれからも加盟都市を増やしていく、もっともっと力をつけていくということをさせていただきたいと思います。

とりわけ国内については、日本国のすべての自治体にこの平和市長会議に入ってもらえるよう、頑張っていきたいと思っておりますし、そして、その皆さんの力を結集して2020年までの核兵器廃絶に向けた取組の強化を一段と図っていきたいと考えています。

ですが、今申し上げたことは、私たちの活動を通じてひとりでも多くの市民の皆さん、そして国連や各国政府・NGOの関係者の皆さんの支援がなければ完結しません。連携が重要です。まとまって行くことがとても重要だと思っています。そういう意味では、引き続

き皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、私の感謝の挨拶にさせていただきます。本当に今回の会議、皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

**司会：**

どうもありがとうございます。これもちまして、第8回平和市長会議総会を終了させていただきます。

明日を含めての4日間、本当にありがとうございました。

ご案内を申し上げます。ご退場の際には、同時通訳レシーバーを受付にご返却くださいますようお願いいたします。また、役員都市の皆さんには、16時15分からこちらの会場において記者会見がありますので、時間までにお集まりください。